

**CONTENTS**

- 活動報告・各種会議議事録
- 会員異動
- 学会関連カレンダー
- 学会主催会議等の詳細
- 日本農薬学会第39回大会ランチョンセミナーの御案内
- 技術士試験対策セミナー
- 第13回IUPAC農薬化学国際会議の渡航費補助の募集
- 平成27・28年度日本農薬学会役員選挙について

平成25年度第3回常任評議員会議事録

日 時：平成25年9月7日（土）13:00～15:20

場 所：日本植物防疫協会 地下会議室

出席者：会長，副会長，常任評議員 計14名

議 事：

I. 平成25年度第2回常任評議員会議事録について確認した。

II. 経過報告および議事

1. 財務関係

- ・平成25年度収支予算管理月報（1月1日から8月31日まで）の報告があった。

2. 編集委員会

- ・第184回（4月3日～6月26日，メール会議）および第185回の常任編集委員会（8月3日）の議事内容の説明があった。
- ・平成25年度の投稿審査状況について報告があった。
- ・論文賞候補論文を選考して学会賞選考委員会へ推薦した旨の報告があった。

3. 環境委員会

- ・第2回残留農薬分析Q&Aセミナーの開催結果について報告があった。
- ・平成25年度の残留農薬分析セミナーについて，関西と東京での実習付き開催であること，およびその

準備状況の報告があった。

- ・他機関との連携に関して，農林水産省消費・安全局植物防疫課からの要望について説明があった。

4. 将来計画委員会

- ・法人化に関する情報収集状況について報告があった。

5. ホームページ委員会

- ・2週間後までのイベント等を掲載するリマインダ欄を学会ホームページに設定することの説明があった。

6. 学会賞受賞者選考委員会

- ・平成26年度日本農薬学会賞の候補者の選考状況について報告があった。
- ・第2回選考委員会は10月5日に開催される。

7. 日本農学会関連

- ・平成25年度第2回運営委員会が9月10日に予定されている。

8. 学術会議関連

- ・植物保護科学連合と主催で平成25年度日本学術会議シンポジウム「新しい植物保護技術への展望」（11月16日）が開催される。

9. 国際会議関連

- ・2014年にサンフランシスコで開催される第13回農薬化学国際会議（IUPAC 2014）の準備状況について説明があった。
- ・IUPAC2014参加者の渡航費補助を行うことを確認し，申請・選考スケジュール，および補助額等が検討された。

10. 農薬科学研究補助金関連

- ・平成26年度農薬科学研究補助金について，一次審査に時間的余裕を持たせるスケジュール，および公募案内や審査方法が確認された。

11. 農薬学会大会関係

- ・第39回大会開催について，大会実行委員長より準備の進捗状況および大会案内文の説明があり，準備が順調である旨の報告があった。
- ・第39回大会において開催される技術士試験対策セミナーの準備状況について説明があった。

- ・講演要旨の著作権の学会への移譲について、大会の講演要旨登録の必須要件とすること、および講演要旨に著作権表示を加えることが承認された。
 - ・過去の講演要旨等についても移譲手続きを進めていくことが確認された。
 - ・植物病理学会および応用動物昆虫学会の会員は昨年と同様に会員待遇で大会に参加できることが承認された。
12. 入退会の報告（平成25年7月16日～平成25年8月31日）
- ・入退会が承認された。入会は正会員4名、退会は名誉会員1名、正会員6名、学生会員1名。
13. 第40回記念行事について
- ・記念事業の内容について引き続き検討していくことが確認された。
14. その他
- ・なし

第186回常任編集委員会 および 読み物企画委員会の合同委員会 議事要旨

日 時：平成25年11月2日（土）13時30分～17時
会 場：東京農工大学 大学院BASE 本館3階会議室
出席者：14名 欠席者：6名
議 事：

- (1) 第185回常任編集委員会（8月3日）議事録の確認
- (2) 投稿・審査状況
- ・2012年の投稿 83編（内、和文3編）積み残しは3件（和文、報文、ノート）。すべてEMを使った投稿で、和文もEMを使用して審査した。
 - ・2013年の投稿 72編（内、和文3編）（2013.10.29現在）
英文原稿（掲載可18編、審査中11編、掲載拒否39編、著者取下げ1件）
和文原稿（掲載可1件）
- (3) 論文のダウンロード状況
- J-STAGEの記録を元とした全文PDFのダウンロード数は、昨年と比べて多くなっている。今後はアグロペディアからもダウンロード数を調査する。
- (4) 常評報告
- ・サンフランシスコで開催されるIUPAC 2014の準備状況。IUPAC2014参加者の渡航費補助の申請・選考・補助額等。渡航者には報告書の提出を要請する。
 - ・2014年京都39回大会の特別講演、シンポジウムの講演者・オーガナイザーが決定した。
 - ・講演要旨の著作権は学会に移譲することとし、講演要旨に著作権表示を加える。過去の講演要旨についても移譲手続きを進めていく。

- (5) Journal of Pesticide Science (JPS) 38巻4号の発刊予定3号との合冊出版。Contents (JPSおよび農薬誌38巻の英文タイトル)、Keyword IndexおよびAuthor Indexを掲載（農薬誌も含む。そのページはJを付して区別する。）
- (6) 日本農薬学会誌（農薬誌）39巻1号の発刊予定掲載を予定している実験技術講座、ミニレビューの執筆者について確認した。
- (7) EMによる査読システム、クロスチェックに関して
- ・システムのDiscussion機能を活用すると、複数の編集委員間で評価結果を共有できる。
 - ・クロスチェックの結果、今年これまでの投稿のうち、17論文（うち国内投稿2論文）で30%以上の同一性が示された。
- (8) J-STAGEの利用学協会説明会（8月6日開催）
- XML形式への移行の勧め（JPSは移行済み。農薬誌はBIB形式）、投稿審査システムの有料化などが伝えられた。新たに記事修正機能が付加され、修正依頼を提出せずに学協会自身で修正操作が可能となった。
- (9) 読み物企画
- ミニレビュー「近年の農薬開発」の企画が紹介された。
- 新しい読み物の企画として、各地の試験場からの話題提供、新しい分離・分析技術、研究・実務におけるインターネットの紹介、マイナー作物に対する農薬登録の現状と問題点、生物多様性条約、レギュラトリーサイエンスにおける最近の話題、ネオニコチノイドとミツバチ、侵入害虫の防除、バイオアッセイやスクリーニング法などについてその可能性を検討した。
- (10) その他
- 2件の転載許可申請について承認した。

平成26年度日本農薬学会賞の決定

学会賞受賞者選考委員会で選考された奨励賞、業績賞（研究・技術）の受賞候補者について、評議員（会長、副会長を含む）による無記名投票を行った結果、受賞者が下記の通り決定された。また、編集委員会から推薦され学会賞受賞者選考委員会で選考された論文賞候補についても評議員（会長、副会長を含む）による無記名投票を行い、受賞論文が決定された。

奨励賞

- ・伊藤晋作氏：ストリゴラクトン機能を制御する化合物の創製研究（東京農業大学応用生物科学部）
 - ・早坂大亮氏：水田メソコスムによる生物群集に及ぼす殺虫剤の影響に関する研究（近畿大学農学部環境管理学科）
- 業績賞（研究）
- ・井藤和人氏：土壌中における農薬分解菌の生態と農薬が及

ばす影響評価に関する研究（島根大学生物資源科学部）
業績賞（技術）

・高垣真喜一氏，尾崎正美氏，藤本修一氏，福本俊一郎氏
（クミアイ化学工業（株），イハラケミカル工業（株），
（株）ケイ・アイ研究所）：新規殺菌剤「ピリベンカルブ」
の開発

・森田雅之氏，米田哲夫氏，秋吉信行氏（石原産業（株））：
殺虫剤「フロニカミド」の研究開発

論文賞

・Kei KONDO, Julien BOULANGE, Thai Khanh PHONG,
Kazuaki HIRAMATSU, Tsuyoshi INOUE, Hirozumi
WATANABE: "Probabilistic assessment of herbicide runoff
from Japanese rice paddies: The effects of local meteorological
conditions and site-specific water management" 37, 312-
322 (2012)

会 員 異 動

（平成25年7月16日～平成25年8月31日）

入 会

正会員

根本 香 上田 祐子 染谷 信孝 藤本 修一
(受付順)

退会

名誉会員

鈴木 直治

正会員

古謝 あゆ子 小田 誠志 加藤 貴央 中島 美穂
西村 博仁 西岡 良美

学生会員

高橋正和

学会関連カレンダー

太字は日本農薬学会が主催，共催，協賛する会議等

2014年

3月

11日（火）第6回環境保全農業シンポジウム

主 催：日本微生物防除剤協議会

会 場：江戸東京博物館 [〒130-0015 東京都墨田区横綱
1-4-1]

U R L : <http://www.biseibutsu.jp/semi/011.html>

13日（木）～15日（土）第39回日本農薬学会大会

主 催：日本農薬学会

会 場：京都大学

U R L : <http://pssj2.jp/congresses/39/taikai39.html>

15日（土）第11回農薬バイオサイエンス研究会

主 催：日本農薬学会 農薬バイオサイエンス研究会，日本
農薬学会大会

会 場：京都大学 農学部総合館 [〒606-8502 京都市左
京区北白川追分町]

26日（水）～28日（金）第58回日本応用動物昆虫学会大会

主 催：第58回日本応用動物昆虫学会

会 場：高知大学

U R L : <http://odokon.org/event/>

4月

25日（金）第31回農薬生物活性研究会シンポジウム

主 催：日本農薬学会 農薬生物活性研究会

会 場：東京農業大学 校友会館グリーンアカデミー 3F 大
会議室 [〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1]

U R L : <http://pssj2.jp/committee/kassei/kassei31.html>

6月

2日（月）～4日（水）平成26年度日本植物病理学会大会

主 催：日本植物病理学会

会 場：札幌コンベンションセンター [〒003-0006 札幌
市白石区東札幌6条1丁目1-1]

U R L : <http://www.knt.co.jp/ec/2014/ppsj/kyousan.html>

9日（月）～13日（金）第10回幼若ホルモン国際会議

主 催：第10回幼若ホルモン国際会議運営事務局

会 場：文部科学省 研究交流センター [〒305-0032 つ
くば市竹園2-20-5]

U R L : <http://www.nias.affrc.go.jp/JH10/index.html>

7月

14日（月）～18日（金）第14回国際ダニ会議

主 催：国際ダニ学会評議員会

会 場：京都テルサ [〒601-8047 京都市南区東九条下殿
田町70番地]

U R L : <http://ica14.acarology-japan.org>

8月

10日（金）～14日（火）第13回IUPAC農薬化学国際会議

主 催：IUPAC, ACS-AGRO

会 場：San Francisco Marriott Marquis [780 Mission Street,
San Francisco, California 94103 USA]

U R L : <http://www.iupac2014.org>

9月

11日(木)～12日(金) 第34回農薬製剤・施用法研究会
主 催：日本農薬学会 農薬製剤・施用法研究会
会 場：神戸国際会議場国際会議室 [〒850-0046 神戸市
中央区港島中町6-9-1]
U R L：http://pssj2.jp/committee/seizai/seizai34.html

10月

16日(木)～17日(金) 第37回農薬残留分析研究会
主 催：日本農薬学会 農薬残留分析研究会
会 場：仙台国際センター [〒980-0856 宮城県仙台市青
葉区青葉山無番地]
U R L：http://pssj2.jp/committee/zanryu/zanryu37.html

18日(土)～19日(日) 植物化学調節学会第49回大会
主 催：植物化学調節学会
会 場：京都大学農学部 [〒606-8502 京都市左京区北白
川追分町]
U R L：https://www.jscrp.jp/category/calendar/years

11月

**24日(木)～26日(金) International Conference of Asian
Environmental Chemistry 2014**
主 催：日本環境化学会
会 場：Chulabhorn Research Institute [54 Kamphaeng Phet
6 Talat Bang Khen, Lak Si Bangkok 10210 Thailand]
U R L：http://www.prime-pco.com/icaec2014/index.html

学会主催会議等の詳細

第31回農薬生物活性研究会シンポジウム

主 催：日本農薬学会 農薬生物活性研究会
日 時：平成26年4月25日(金) 10:00～16:00
場 所：東京農業大学 校友会館グリーンアカデミー 3F大
会議室 [〒156-0054 世田谷区桜丘3-9-31]
http://www.nodai.ac.jp/access/map_s.html
交 通：小田急線経堂駅または千歳船橋駅から徒歩15分
U R L：http://pssj2.jp/committee/kassei/kassei31.html

プログラム(案)

10:00～10:05 開会あいさつ
濱村謙史朗(農薬生物活性研究会委員長)
第一部 殺虫剤
10:05～10:40 メタフルミゾン(アクセルフロアブル)
の生物活性とその特徴
海野 大(日本農薬)
10:40～11:15 新規殺虫剤アフィドピロペンの生物活性

堀越 亮(Meiji Seika ファルマ)

11:15～11:50 アバメクチン(アグリメック)の特性と
害虫防除への活用

杉井 信次(シンジェンタジャパン)

11:50～13:00 一休憩(昼食)一

第二部 殺菌剤

13:00～13:35 新規殺菌剤フルキサピロキサドの生物活
性(仮題)

山下 慶晃(BASFジャパン)

13:35～14:10 新規殺菌剤フェンピラザミンの生物活
性(仮題)

廣富 大(住友化学)

14:10～14:45 新規殺菌剤エタボキサムの生物活性(仮
題)

井上 拓也(住友化学)

14:45～15:00 一休憩一

第三部 除草剤

15:00～15:35 新規除草剤インダジフラムの生物活
性(仮題)

小淵 茂俊(バイエルクロップサイエン
ス)

15:35～16:10 新規除草剤イプフェンカルバゾンの生物
活性(仮題)

近藤 智(北興化学工業)

16:10～16:45 新規除草剤メチオゾリンの生物活
性(仮題)

生田 英二

(エス・ディー・エス バイオテック)

16:45～16:50 閉会あいさつ

濱村謙史朗(農薬生物活性研究会委員長)

シンポジウムの詳細・最新情報につきましては、学会ホー
ムページ(http://pssj2.jp/committee/kassei/kassei31.html)も
合わせてご参照下さい。

第10回幼若ホルモン国際会議
(10th International Conference on Juvenile Hormones)

平成26年6月9日～13日につくば市で第10回幼若ホルモ
ン国際会議10th International Congress on Juvenile Hormones
(JH10)が開催されます。記念すべき第10回会議は初のア
ジア開催となります。詳細はURLをご覧ください。

すでに登録受付を開始しており、早期登録は2月末まで、
講演申込みは、4月末までです。皆様、奮ってご参加・ご登
表下さいますようお願い申し上げます。

主 催：第10回幼若ホルモン国際会議運営事務局

共 催：独立行政法人 農業生物資源研究所
協 賛：日本応用動物昆虫学会，日本農薬学会，日本農芸化
学会，日本昆虫科学連合
日 時：平成26年6月9日（金）～13日（金）
会 場：文部科学省 研究交流センター [〒305-0032 つ
くば市竹園2-20-5]
TEL: 029-851-1331 FAX: 029-856-0464
http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/kouryucenter/

U R L : <http://www.nias.affrc.go.jp/JH10/>
問合せ先：第10回幼若ホルモン国際会議運営事務局
〒305-8634 茨城県つくば市大わし1-2
農業生物資源研究所
昆虫科学研究領域内 塩月孝博
TEL: 029-838-6079 FAX: 029-838-6028
E-mail: jh10@nias.affrc.go.jp

日本農薬学会第39回大会ランチョンセミナーの御案内

日本農薬学会第39回大会は平成26年3月13日（木）から15日（土）までの3日間にわたって京都大学にて開催されますが、会期中の昼食時に昼食（お弁当）付のランチョンセミナーが開催されます。ランチョンセミナーのプログラムは下記のように決まりましたので、御案内致します。是非ご参加下さいますようお願い申し上げます。

●3月14日（金） 12:00～13:00

（農学部総合館W314教室：定員100名）

一般財団法人 生物科学安全研究所

「EUにおける農薬のミツバチに対するリスク評価 - データ要求とリスク評価法の概要」（米国における花粉媒介昆虫と殺虫剤に関する最近の課題）

演者：雑賀 修（株式会社日曹分析センター小田原事業所）

座長：福田苗美（一般財団法人生物科学安全研究所）

（農学部総合館 W322教室：定員100名）

WIL Research Company, Inc.

“The Role of ADME in International Pesticide and Herbicide Registration”（農薬の国際登録における代謝の現状と規制について— 一家畜代謝を中心に—）

演者：Jennifer Thomas, PhD (Assistant Director, ADME/DMPK, WIL Research Company, Inc.)

座長：野村政直（石原産業株式会社 バイオサイエンス部 登録部 グループリーダー）

共催：株式会社スリーエス・ジャパン

（農学部総合館W422教室：定員100名）

ハンティンドン ライフサイエンス株式会社

“Recent developments in avian toxicity testing and risk assessment refinement”

演者：Dr. Peter Aikens

進行役：堀越光男（ハンティンドン ライフサイエンス株式会社）

●3月15日（土） 12:00～13:00

（農学部総合館W314教室：定員100名）

LANDIS INTERNATIONAL, INC., USA

“Current challenges in the US regarding pollinators and pesticides”（米国における花粉媒介昆虫と殺虫剤に関する最近の課題）

演者：Lisa Setliff (Director Regulatory Affairs, LANDIS INTERNATIONAL, INC., USA)

共催：株式会社エルエスピー

(農学部総合館W322教室：定員100名)

(株)アフィニティサイエンス, (株)京都コンステラ・テクノロジーズ

“Advanced Pharmacophores for Accurate Virtual Screening and Compound Profiling”

演者：Prof. Thierry Langer (他2名を予定) (Inte: Ligand Software Development & Consulting)

(農学部総合館W422教室：定員100名)

日本チャールス・リバー株式会社

“Modification of Study Designs to Meet Changing Regulatory Requirements and Specific Compound Requirements”

演者：Dr. David MacPherson (Head of Chemistry and Field Trials, Charles River Laboratories Edinburgh)

技術士試験対策セミナー

平成26年3月13日(木)から15日(土)に京都大学にて開催される日本農薬学会第39回大会において、技術士試験対策セミナーを開催致します。プログラムが下記のように決まりましたので、御案内致します。

日時：3月15日(土) 13:00～14:30

場所：京都大学農学部 総合館W-302教室

プログラム：

1. 技術士制度および技術士試験について 平瀬寒月 (三井化学アグロ (株))
2. 受験体験談① 天野昭子 (岐阜県病害虫防除所)
受験体験談② 安宅 雅 (バイエルクロップサイエンス (株))
3. 質疑応答

このセミナーには、日本農薬学会会員以外に、植物保護関連学会(日本植物病理学会、日本応用動物昆虫学会、日本雑草学会、日本植物化学調節学会)の会員であれば無料(セミナーのみに参加の場合)で参加できます。また、日本農薬学会会員の方は、関連学会(日本植物病理学会、日本応用動物昆虫学会)の大会で開催されるセミナーに無料で参加することができます。日本農薬学会大会に参加予定の無い方、日程等ご都合が合わない方はご利用下さい。関連学会でのセミナーにご参加の場合は、日本農薬学会誌封筒(会員番号とご氏名が明示されているもの)をご持参の上、会場でご呈示下さい。なお、関連学会の当該セミナー参加のみ無料で、大会に参加をご希望の場合は別途大会参加費等が必要になりますのでご注意ください。

以下、関連学会の技術士試験対策セミナーの予定です。

日本植物病理学会 <http://www.knt.co.jp/ec/2014/ppsj/>

日時：平成26年6月4日(水) 13:00～14:30

場所：札幌コンベンションセンター

日本応用動物昆虫学会 <http://58.odokon.org/program/>

日時：平成26年3月27日(木) 12:00～13:00

場所：高知大学朝倉キャンパス共通教育棟3号棟331室

第13回IUPAC農薬化学国際会議参加者に対する渡航費補助の募集

第13回IUPAC農薬化学国際会議が、IUPACと米国化学会(アグロケミカルディビジョン)の共催により2014年8月10日から14日の日程で米国カリフォルニア州サンフランシスコ市のサンフランシスコ・マリ奥特・マークスにて開催されることとなりました。本会議では、米国を始め世界各地から多数の農薬科学研究者が参加し、最新の農薬科学に関する研究成果の発表、討議、情報交換が行われます。会議の詳細については、ウェブサイト(<http://www.iupac2014.org>)をご覧ください。

当学会では、本会議に出席される会員の方に対して、国際学術交流基金よりその費用の一部を援助致しますので、下記の要

領にしたがって申請下さい。

1. 応募資格（以下のすべての条件を満たす者で、かつ本補助金を受けた次の年から少なくとも3年間は会員として在籍すること）
 - (1) 日本農薬学会の正会員または学生会員（平成26年4月1日（火）までに日本農薬学会の会員登録をした者を含む）
 - (2) 本会議において口頭またはポスター発表する者
 - (3) 会議への参加登録をした者
2. 補助額および補助件数
補助額：1件あたり20~30万円の一律額
補助件数：10～15名程度
3. 応募方法
所定の申請用紙（本会議参加への渡航補助申請専用の様式を用意しています。学会ホームページからダウンロードできますのでご利用ください。 <http://pssj2.jp/inside/reference/IUPAC13-appl.doc>）に必要事項を記載して農薬学会事務局（下記）までファックスあるいは電子メール（ファイル添付）で送付して下さい。なお、学生会員の場合は指導教員の推薦が必要です。
4. 応募の締切
平成26年4月1日
5. 選考
常任評議員会で審議の上決定し、平成26年5月中頃までに本人に通知します。
6. その他
本助成金を受けた方には本学会誌に掲載用の報告記事の提出をお願いする場合がありますので、ご協力をお願いします。
申請用紙が入手できない場合や渡航費補助申請手続き等で不明の点は学会事務局までご連絡ください。

問合せ先：学会事務局（E-mail: nouyaku@mocha.ocn.ne.jp）

平成27・28年度日本農薬学会役員選挙について

平成26年10月に平成27・28年度日本農薬学会役員選挙が実施される予定です。今回から、インターネットを利用して投票するWeb投票システムが導入されます。インターネット環境が整っていない会員は、これまで通り、投票用紙の郵送による投票を行うことができます。詳細につきましては、選挙管理委員会発足後に、メールまたは郵便にてご連絡致します。また、次号ニュースレターでもお知らせ致します。なお、本会規定により、本年5月31日の時点で今年度の会費を納入していない方には選挙権・被選挙権が認められませんので、会費を払われていない会員の皆様には会費納入を5月末までに済ませて下さいますようお願い致します。

発行所：日本農薬学会

〒114-0015 東京都北区中里2-28-10

一般社団法人日本植物防疫協会内

TEL: 03(5980)0281 FAX: 03(5980)0282

E-mail: nouyaku@mocha.ocn.ne.jp